

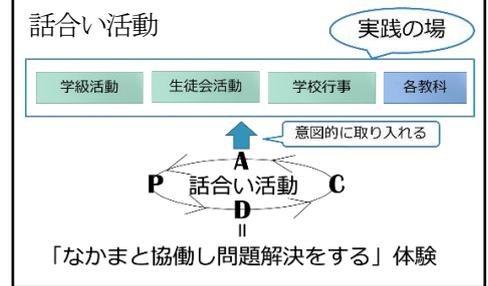
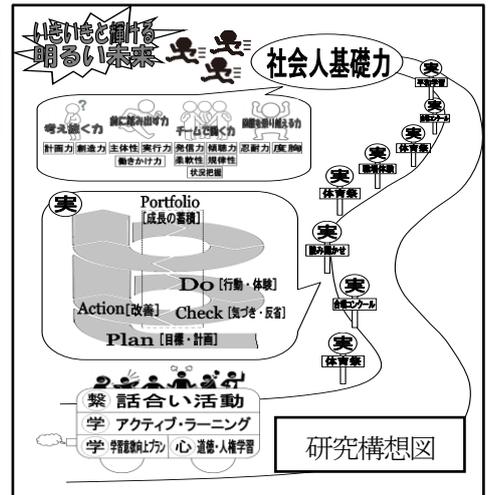
1. 研究主題

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成
～話し合い活動を軸として～

2. 研究の内容

本校の取組を通して生徒に身に付けさせたい力は、大きくは「主体」と「協働」の力である。それをさらに具体的に整理したのが右の図である。これは経済産業省がこれからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力として提唱している「社会人基礎力」を基にして細かく12の力に整理したものである。

「主体」と「協働」の力を身に付けさせるため、本校では特別活動を中心に据え、各教科や総合的な学習の時間、道徳を関連させ、学校生活の様々な場面を実践の場と捉え、実践に向けて話し合い活動を意図的に取り入れることにした。そこでは、実践をより充実させるために、PDC Aサイクルを意識すること、なかまと協働し問題解決する体験となることの2つを意識し、話し合い活動を工夫して行っている。この取組を3年間計画的に実践することで、「主体」と「協働」の力を高めたいと考えている。(本校では、この話し合い活動のことをアクションミーティングと呼び、問題解決の取組をアクションチャレンジと呼んでいる。)



3. 実践の内容

(1) 学級力向上プロジェクト

学級力向上プロジェクトとは

- 1 学級力アンケートをもとにレーダーチャートを作成
- 2 班長会 (クラスの課題を整理)
- 3 学級力向上アクションミーティング **今年は2時間構成に!**
 - ①課題の共有・対策を考え、発表
 - ②対策を全員で練り直し、決定 (合意決定)
- 4 アクションチャレンジ

※生徒の力で取り組める内容 ※取組は見える化

アクションミーティングの第2時では、対策の合意決定の場面を学習活動の中心とした。生徒の力で合意決定することで、より生徒主体の活動へとつながった。

(2) たてわりプロジェクト (合唱コンクール)

計画から実践

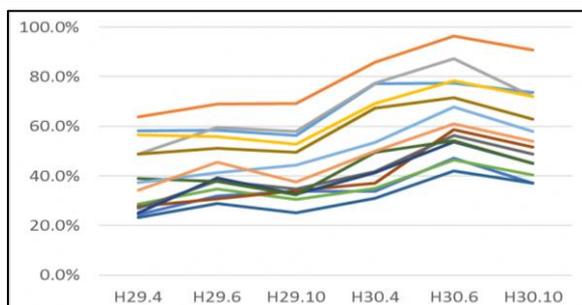
実践から反省そして次の計画へ

体育祭と合唱コンクールの取組で、生徒によるPDC Aサイクルが確立された。

4. 研究の成果と課題

生徒に身に付けさせたい力について、生徒アンケートを実施しており、12の身に付けさせたい力がこの2年間で向上している。学校生活の様々な場面で、話し合い活動を問題解決に向けて計画し、実行していけるよう仕掛けをしてきた成果だといえる。また、こういった話し合い活動に取り組んだことが、教科の授業で生徒や教員に生かされているかについて、職員アンケート実施している。その結果、各教科において、話し合いがスムーズになったなどの生徒の変容や積極的に学び合いを取り入れるようになったなどの教師の変容が見られている。

生徒アンケート 身についたと答える生徒の割合の推移 (2年間)



職員アンケート

